

§26.

いろいろな省略 — 何が消えるのかに着目する

ターゲット英文 26

Apparently she could not reconcile my looks and eating habits with some other facts — that year after year she'd seen me carry my children on my back **as she had her children and then grandchildren.**

[香川大]

notes ▶ she は書き手の隣人の高齢の女性

英語にはいろいろな省略現象があります。「え？ ターゲット英文26に省略なんかあるの？」という声も聞こえてきそうです。授業でこれまでこの英文を扱った際は、正しく読めない生徒が多い印象です。この英文を正確に理解するための準備として、まずは基本的な省略の例から順に見ていきましょう。

(1) Gates hated losing chess games so much that when he **did**, he would throw the chess pieces onto the floor.

[青山学院大]

「(ビル・)ゲイツはチェスに負けるのが大嫌いで、負けると、チェスの駒を床にぶちまけたものだった」

ここで使われている did は動詞句の繰り返しを避けるための助動詞で、いわゆる代動詞という名称で教わるものです。ここでは did = lost chess games という関係です。

この代動詞は、実は英語学習の初期に扱われています。疑問文に対しての答えで、Yes I did / No I didn't のような受け答えを練習しますが、この did / didn't もまさにこの使い方です。もちろん、この他に助動詞の will / can などと同じ使い方があって言うまでもないことでしょう。これを省略と呼ぶのかどうかとい

う問題はありますが、lost chess games という長い表現を短く did とまとめてあるので、とりあえずここでは省略として扱っておきます。

異なるタイプの省略を見てみましょう。

(2) The outlook for recovery of wild panda populations remains bleak, **and** the key issue the protection of forest ecosystems.

[同志社大]

「野生のパンダの個体数の回復の見通しはまだまだ暗く、重要な課題は依然として森の生態系の保護である」

この英文のどこに省略があるか見抜けたでしょうか。and は文と文を等位接続していますが、後半の文には動詞がありません。つまり、本来であれば the key issue remains the protection of forest ecosystems となるはずのところ。等位接続される前後の文で動詞が同じなので、二度目が省略された構造になっているのです（専門的には「空所化」と呼ばれます）。

空所化にはいくつかの構造上のポイントがありますが三点ほど説明しましょう。説明の便宜上、この構造を $\langle S_1 V A \text{ and } S_2 \phi B \rangle$ と表記します（省略箇所を ϕ で表しています）。

第一に、この構造は基本的に等位接続された文、特に and でつながれた二文で起こります。

第二に、省略される動詞の部分が必ず何かの要素に挟まれる形になります（つまり、省略部分が文末に来てはいけません）。

第三に、 S_1 と S_2 、A と B はそれぞれ異なっていないといけません。

慣れるためにさらに例を挙げておきましょう（わかりやすいように、以下の例文でも省略箇所に ϕ の記号をつけてあります）。

(3) The brain **is often envisioned** as something like a computer, **and** the body ϕ as its all-purpose tool.

[名古屋大]

「多くの場合、脳はコンピューターのようなものとして、身体は脳が操る汎用ツールとして思い描かれる」

(4) In the last few decades, however, the rich **have gotten richer and** the poor ϕ poorer.

[関西大]

「しかしながら、ここ数十年、富裕層はさらに裕福に、貧困層はさらに貧しくなった」

§26.